

(2) 平成4年度災害共済給付状況

日本体育・学校健康センター福島県支部

区分	加入児童生徒等の数 (除要保護者)	医療費(負傷・疾病)				障害見舞金		死亡見舞金		合計		3年度との比較 (増△減)	
		災害件数	給付額	発生率	平均給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額
小学校	172,330人 (171,851)	6,604	58,416,875	3.84	8,846	5	6,010,000	1	8,500,000	6,610	72,926,875	△137	△33,855,068
中学校	92,989 (92,605)	6,225	76,646,218	6.72	12,313	3	11,200,000	1	8,500,000	6,229	96,346,218	37	6,473,377
全時制	89,734	2,686	55,745,483	2.99	20,754	9	6,325,000	1	8,500,000	2,696	70,570,483	19	△17,300,721
	1,017	7	80,892	0.69	11,556					7	80,892	3△	16,564
	699	0										△1	△4,652
高等専門学校	823	17	227,843	2.07	13,403					17	227,843	△4	△206,510
幼稚園	40,203	654	6,753,764	1.63	10,327					654	6,753,764	△32	712,242
保育所	18,470 (18,372)	244	1,804,892	1.33	7,397					244	1,804,892	△21	△813,261
合計	A 416,265 (415,304)	16,437	199,675,967	3.96	12,148	17	23,535,000	3	25,500,000	16,457	248,710,967	△136	△44,978,029
3年度合計	B 422,101 (420,922)	16,567	181,448,996	3.94	10,952	22	56,240,000	4	56,000,000	16,593	293,688,996		
比較(A-B)	△5,536 (△5,618)	△130	18,226,971	0.02	1,196	△5	△32,705,000	△1	△30,500,000	△136	△44,978,029		

(注) 1 発生率=災害件数÷加入児童・生徒等の数(要保護児童・生徒を除く)×100

2 平均給付額=給付額÷災害件数

=障害=

区分	歯障害	目障害	醜状障害	手指機能障害	脊柱障害	計
小学校	3	1	1			5
中学校	2				1	3
高校	4	1	2	2		9
計	9	2	3	2	1	17

=死亡=

=供花料=

区分	事故死	突然死	計	区分	供花料
小学校		1	1	小学校	3
中学校		1	1	中学校	
高等学校	1		1	高等学校	2
計	1	2	3	計	5

1件当たり3万円

(3) 学校安全普及充実事業

- ① 第26回東北学校保健大会、第15回福島県学校体育、保健・安全、給食研究会の共催
 - ② 各種研修会等への講師派遣
 - ③ 刊行物の発行
 - ア 支部機関誌「学校安全」第38号
 - イ 新入学児童等の保護者向け「災害共済給付のしおり」
 - ④ 学校安全優良学校の表彰
- (4) 交通安全ポスターコンクール
- ① 主催 県・県教育委員会・県警察本部ほか3団体

② 対象 県内小・中学校、高等学校及び養護学校等の児童生徒

③ 応募状況

上記優秀作の中から、優秀な作品を東北地区コンクールへ応募し、次の者が入賞した。

○ 交通安全ポスターコンクール(東北)

・小学校の部

- 銀賞 いわき市立勿来第一小学校 3年 羽賀 沙織
- 銅賞 会津若松市立城南小学校 5年 小柴 宏美
- ” 福島市立森合小学校 6年 斎藤 彩子
- 佳作 梁川町立白根小学校 2年 三浦 和史
- ” 会津若松市立城南小学校 5年 斎藤 沙織

・中学校の部

- 金賞 浪江町立浪江中学校 2年 原中 静香

6 保健・安全に関する研究推進学校の指定

(1) むし歯予防研究推進校(文部省)

- 研究指定校 福島市立笹谷小学校
- 研究期間 平成3年度～平成4年度の2年間
- 研究主題 「むし歯予防の意識を高め、自らむし歯予防に取り組む児童を育てる指導は、どのようにしたらよいか。」
— 特に、日常生活の実践を通して —

(2) 学校安全研究推進校(日本体育・学校健康センター)

- 研究指定校 喜多方市立第一幼稚園
- 研究期間 平成4年度～平成5年度の2年間
- 研究主題 「幼稚園生活の中で安定し、自己を発揮し、充実した活動ができる幼児を育成する。」